

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	K.O	学部・学科	国際商学部国際商学科
学 年	2年生	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	Summer Language and Culture		
期 間	2025 年 6 月 29 日～ 2025 年 7 月 27 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は 2 コマに分かれており、先生もそれぞれ違います。先生や曜日によって実施する内容は変わります。1 コマ目の授業では特にスピーキングに力を入れて取り組んでいた印象でした。授業の中で3回ほどプレゼンを行いました。時間としてはディスカッションの時間を含めて5分程度のものと10分程度のものになっていました。そのプレゼンはいきなり実施するのではなく、まず授業でそのテーマに関連したものを取り上げます。カナダの習慣や文化、絶滅の危機に瀕している生き物などを学びました。そこで学んだことを生かして現地のカナダ人や同じクラスメイトの人への質問などを考えます。そしてインタビューを実施し、学んだことを発表する形となっています。ほかにも理由や質問の仕方などのプレゼンや日常会話で生かすことのできる文法を学び、ペアやグループで練習を行いました。またTED を用いてリスニングを実施することもありました。授業の最初ではよくペアやグループでスモールトークを行っていました。カナダと自分の国との違いについて、昨日したこと、自分の紹介など話す内容は毎回違いました。2 コマ目では貸し出された教科書を用いた文法の勉強を行いました。授業の最後40分ほどではペアをローテーションして変えながら、出された質問に対しての自分の考えを話す演習を行いました。また模造紙を用いてちょっとした発表を行うときもありました。そして毎週月曜日は15分間の時間制限を設けて、週末したことや出されたお題についてのことをライティングしていました。そのあとそのことをペアに発表して先生へ提出します。後日その紙は返却されるので、間違いの訂正と新たに文を付け加えて再提出します。またどちらのコマでも授業内で取り扱った単語や文法、リスニング、ディクテーションの小テストもありました。授業は基本ペアワークやグループを作って実施していました。続いてどのような課題内容が出されていたのかについてです。1 コマ目は毎回出しており、2 コマ目もほとんど毎回でていました。内容はカナダ人やクラスメイトへのプレゼンのインタビューや原稿の書き直し、文法問題、リーディング問題など毎回の授業によって変わります。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して得られたこととしては英語能力の向上とカナダ文化を知ることができたということです。英語の特にリスニング、スピーキングが前よりも向上したと感じました。周りに英語しかないという環境を経験したことがなかったので自分としてはとても良い経験となりました。特にスピーキングはなかなか日本で伸ばすことが難しかったので向上することができた良かったです。また授業の中で取り扱ったことで日本に帰った後も続けることができることは取り入れていきたいと思います。知っていてもなかなかすぐに頭に浮かばない単語なども話し続けることによって浮かびやすくすることができるようになったと思います。またカナダの文化あるいは韓国や台湾、南米といった異文化の人と交流できたことも良かったです。例えば友達との距離感やハグなどの挨拶の仕方、何に対しても感謝や謝罪をすることなどです。文化の違いに良い、悪いということは全くなく、文化を知っておくことで失礼のないようにいい関係を築くことができるようになりました。相手の文化を知ることが大切であることに気づくとともに今後もいろいろな人と交流したいという思いが強くなるきっかけになりました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

失敗することを恐れることがなくなりました。最初は絶対完璧に話さないと伝わらないし、ミスしたくないという思いが強かったです。しかしそうすると話すことを躊躇してしまい、結果として英語が話せないということになってしまいます。そのため授業では完璧ではないけどとにかく話すようにしました。そうすることで先生に間違いを指摘してもらうことができ、より自分のスキルを向上することができました。またわからないことはすぐに聞けるようになったことも変化だと思いました。もともと性格は内向的だったので自己解決したいという思いが強かったのですが、研修を通してその性格も変えることができたと感じています。カナダではわからないことが多いので日本よりできないことが多いです。そのためたくさんの人に質問したり、助けてもらったりする機会が授業内外で多かったです。例えばバスの乗り方や物の使い方、場所の生き方などです。そのような経験を通して自分の性格も前より外交的になったと思います。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

少しずつ将来自分が何になりたいのか考え始めていました。その中で今回の留学の経験は短いながらもとても良い機会になりました。海外と日本をつなげるような仕事などに興味を持つことができました。夏休みで自分なりに調べ、インターンや説明会などがあれば積極的に参加したいです。今後も英語の勉強は続けていきたいと考えています。特にスピーキングやリスニングの能力向上に力を入れていきたいと考えています。授業で自分なりに続けることができる勉強の仕方もあったので早速取り入れてみようと思いました。また横浜市立大学の授業には英語で行われる授業もあるのでそれを通して、自分の分野の専門的なことも英語で理解するとともに会話ができるようになりたいです。

CU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	T.M	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	Summer Language and Culture		
期 間	2025 年 6 月 29 日～ 2025 年 7 月 27 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

まず、プログラム開始日にライティング、スピーキングのテストがあり、その結果に応じてクラス分けをされるため、自分のレベルに合った授業が受けられる。また、クラスに対してレベルが高すぎる、もしくは低すぎるなどの不安がある場合は相談すれば他のレベルへの移動も可能という話だった。私のクラスは韓国人が最も多く、その次に日本人が多かった。日本人は5人いたが、授業中は英語のみ使うというルールだったので、日本人のクラスメイトとも授業中は英語で話していた。基本的にクラスはスピーキングが中心だが、ボキャブラリー、リスニング、リーディングのテストなどもあった。一時間目のクラスでは自分の経験を話すプレゼン、二時間目のクラスではグループで調べた情報を基に、調査結果を発表するプレゼンを行い、全部で五回のプレゼンがあった。プレゼンでは台本に文を書くことが禁止されており、単語のメモ程度の台本を使ってプレゼンをした。あるプレゼンでは「カナダ人とは」というテーマで、チームごとに食べ物、ドライブなどジャンルとその決めたジャンルに関する質問を決め、実際に各自でカナダ人5人にインタビューを行うという課題もあった。また、プレゼン以外のスピーキングとしては、出されたお題に関してペアでディスカッションをし、お題が変わるタイミングでペアも変わるペアでのディスカッションなどがあった。お題は授業によってさまざまだったが、日本語でも少し難しいお題もあり、日常会話ではあまりしないような話もできた。文法も学ぶが、内容としては現在完了形、used to など中学高校レベルであった。しかし、他のクラスメイトとの答え合わせで意見が異なったときに英語で説明しなくてはならないため、文法それ自体というよりも英語での説明能力を身につけるという気持ちだった。英語での文法用語(動詞=verb、形容詞=adjective)などは授業でよく使われるので、それらの用語の英語での言い方は事前に学んでいったほうがよかったと感じた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業内での発言に対し、先生が冠詞のつけ忘れや動詞の変形忘れを一つ一つ指摘してくれるので、普段から意識する癖がつき、日常会話でも自分のミスにすぐ気づいて修正することができるようになった。プレゼンテーションで先生がくれる採点シートの裏面に、文法のミスや発音のミスを書かれていたので、自分が無意識にしやすいミスを知ることができた。また、授業内で短い会話の暗唱を繰り返すことで、単語のスペルの聞き方や品詞ごとに異なる意味の聞き方、もう一度言ってほしい時の頼み方など、日常会話で困ったときに使える知識も身についた。この質問の仕方は最初の方の授業で教えてもらったので、その後の授業で分からない単語が出てきたときや聞き取れなかったときにとっても役に立った。さらに、英語の知識のみならず、文化をテーマにした授業が多かったことで、カナダの文化やクラスメイトの国の文化に対する理解も深まった。中でもコミュニケーション文化をテーマにした授業では、日本では失礼になることが他の国では普通のことだったり、逆のパターンも存在していたりして、非常に有益な知識を得られたと感じる。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、割り当てられたレベルが自分には高いように感じ、クラスについていけるか、クラスメイトと話せるのか不安に思っていたが、何かを伝えたいときうまく伝えられなくても、先生やクラスメイトが助け舟を出してくれたり、理解するために質問してくれたりしたので、話そうとする姿勢が重要なのだと思えた。伝わらない場面もそこまで多くなく、最初は怖かったクラスメイトとの雑談も楽しい時間へと変わっていき、もっと英語を話したいと思うようになって、自分の英語にも自信がついた。硬くならず話せるようになったことで、自分から話しかけたり、もっと自然に話したりすることができるようになった。また、カナダ人へのインタビュー課題や授業での先生の話の聞き取りを通して、早い英語の聞き取りが以前よりもできるようになったと感じる。施設内のアナウンスなどは、別のことをしながらでも大方聞き取れるようになり、現地で外出した時、不安を感じるものが最初よりも減った。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

留学に行く前、英語が話せるか不安で仕方なかったが、今回の経験を通して完璧でなくても挑戦することが重要であること、また英語は勉強する科目であるだけでなく、コミュニケーションツールであることが実感できた。今後は日本でも生きた英語に触れる機会をもっと増やすために、英語で行われる講義や交換留学生のチューターボランティアなど、英語でしかコミュニケーションが取れない環境に積極的に身を置き、自らの能力を高めていきたい。また、授業内で行ったディクテーションがリスニング能力の向上に効果的であると感じたため、動画サイトなどを活用して自主的に続けたいと思う。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	U.Y	学部・学科	国際商学部 国際商学科
学 年	2 年	派遣国	カナダ
派遣大学	ビクトリア大学		
コース名	Summer Language and Culture		
期 間	2025 年 8 月 4 日～ 2025 年 8 月 24 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

今回の留学では、英語の四技能を総合的に学ぶことができた。授業はコミュニケーションの機会を多く取り入れており、グループワークやマンツーマンの会話、さらに街で知らない人にインタビューを行う課題も設定されていた。特にインタビュー課題では、テーマをグループで話し合って決めるが、実施は各自が一人で行う形式で、対象はネイティブのカナダ人に限られていた。私のグループは「カナダの気候」を選び、季節ごとの生活や防寒対策などを尋ねた。他のグループはスポーツや食文化をテーマにしており、それぞれが発表の際に自国との違いにも触れることで、比較を通じた学びが深まった。授業で多く扱われたトピックはカナダ文化であり、国民的スポーツであるアイスホッケーや、寒冷な気候と生活の関わりが繰り返し紹介された。これらを踏まえて意見交換を行うことで、文化的背景を理解しつつ表現を練習する機会となった。ライティングでは、手紙作成や短い語彙テストに加えて、エッセイ課題もあり、自分の考えを整理して文章化する練習を行った。自分の主張を英語で構成する過程で語彙が増え、適切な言い回しを学ぶことができた。また、リーディング課題では文章を読み要点をまとめる力を養い、授業内でのディスカッションにも活用された。リスニングでは、カナダの文化や日常会話で使われる表現が数多く取り上げられ、授業外ですぐ実践できる環境があった。文法についても基礎から丁寧な指導があり、演習を通じて繰り返し練習することで理解が定着した。最終日にはリスニングとライティング試験に加え、自分の好きな音楽や映画をテーマにした五分間のプレゼンテーションを行った。発表後には質疑応答もあり、即興で答える必要があったが、日常的に英語を使ってきた成果を確認する機会となった。今回の留学では、授業全体を通して多角的に英語を学ぶ機会が提供され、語彙や表現の幅を広げながら実践的な力を高めることができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

今回の留学を通して、私は英語を単に知識として学ぶのではなく、実際に使うことで力が伸びていくことを実感した。授業では、リーディングやライティング、リスニング、スピーキングのすべてがバランスよく組み込まれており、特にエッセイやインタビューの課題では、自分の考えを整理し、相手に伝わるように表現する力が求められた。これにより、自分が何を言いたいのかを意識しながら語彙を選ぶ習慣が身についた。また、カナダ文化について学び、自国と比較する機会を通して、異文化を理解するためには言語力と同時に背景知識が重要であることを学んだ。プレゼンテーションや質疑応答の場面では、準備していない質問に即興で答える経験を重ねる中で、完璧でなくてもまずは発信する姿勢が大切だと気づいた。これらの経験から、英語力は繰り返し使うことで定着し、自信にもつながることを学んだ。今後は授業で得た表現や語彙を忘れないよう積極的に使い、さらに異文化交流の機会を大切にしていきたい。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

留学前は、日本でネイティブの先生と英語で話すよう求められても、文法の誤りを気にしてしまい、自分から積極的に会話を広げることができなかった。しかし、カナダで過ごした三週間では状況が大きく変化した。授業や日常生活の場面では英語でなければ意思を伝えることができず、また異国の友人と仲良くなるためにも英語を使う必要があった。そのため半ば強制的にコミュニケーションをとる環境に置かれたことで、積極性が自然に養われたと感じる。さらに授業で学んだ文法や単語を実際の会話で繰り返し使ううちに、自分でも驚くほどスムーズに話せるようになったと実感した。また、留学前から「海外の友達をつくりたい」という目標をもっていたことも後押しとなり、積極的に声をかけるよう心がけた。その中での会話は常に文化や言語の違いに関わる話題で、現地の人だからこそ知っている流行や生活習慣を聞くことができ、異文化への理解を深めることができた。留学を通して、自分の内向的な姿勢が前向きに変化し、言語力とともに異文化交流への積極性を培うことができたと感じている。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学を通して、語彙や表現力の幅が広がったことで、以前より自信を持って英語でコミュニケーションを取れるようになった。また、異文化交流の機会を通じて他国の文化への関心が高まり、今後も積極的に国際交流の場に参加したいと考えるようになった。こうした場に参加することで、授業で学ぶ専門的な知識に加えて、世界で共有される価値観や国際的な視点を身につけられると改めて実感した。